

令和4年度第2回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録(概要版)

- 1 日時 令和5年2月9日(木) 午前10時～午前11時30分
- 2 場所 議会大会議室
- 3 出席委員
森田委員、加藤委員、小澤委員、木下委員、熊谷委員
- 4 議事
報告事項
(1) 青梅市人口ビジョン改訂版(案)について
協議事項
(1) 第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版(案)について

(配布資料)

資料1 青梅市人口ビジョン改訂版(案)

資料2 第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版(案)

発言者	会議の概要
会長	<p>(開会)</p> <p>皆さんおはようございます。</p> <p>今年度3回目の青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会にご出席をいただき、ありがとうございます。</p> <p>皆様ご承知のとおり、今月6日にトルコ南部で起きた2回の大地震の死者が1万1千人を超えていると、報道されている。</p> <p>また、負傷者は2万人を超えていると言っていたが、シリアの状況も不明で、相当の数の負傷者の方がいるのではないかと思う。</p> <p>思い起こすと、日本の3.11、東日本大震災以来の、死者の数と言われており、何とか、1人でも多くの方が救出されればと思っている。被災された方々には心よりお見舞いを申し上げたい。</p> <p>さて、令和5年度に入る4月から、第2期の青梅市まちひとしごと創生総合戦略改訂版の期間が始まる。</p> <p>2回にわたっていろいろご協議いただいたが、いよいよ今日は最後の詰め の検討ということになるので、ぜひ委員の皆様には、ご協力をいただき、ご意見等いただきながら、事務局の方に最後の取りまとめをお願いしたいと思っているので、よろしく願います。</p> <p>最初に今日は次第の2(1)の報告事項、「青梅市人口ビジョン改訂版」の案 について、事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p><「青梅市人口ビジョン改訂版(案)について」、資料1を用いて説明></p>
会長	<p>事務局からの説明をしていただいた「青梅市人口ビジョン改訂版(案)につ いて」、意見や感想など、最初に委員の皆様から一言ずつお願いしたい。</p> <p>その後、さらにご意見があればお願いしたい。</p>
委員	<p>今ご説明していただいた、5ページ目と6ページ目に、転入転出の状況とい うことが書いてあり、特に羽村市からの転入と、羽村市への転出が一番多いと いうことになっているが、転出の方が多く、羽村市にかなり人が流れているとい う状況になっているかと思う。これは何か分析や調査はしているか。</p>
事務局	<p>第7次青梅市総合長期計画を策定する際に、転出をされた方にアンケート をお願いした。</p> <p>転出理由の中で、多かった回答は「通学や通勤のしやすさ」で、職場・学校等 が近いという回答が多かった。青梅市の地形を見ると、例えば最寄りの駅まで 近いところもあるが、遠いところもある。一方羽村市は、大体がJR青梅線に近</p>

委員	<p>いということで、もしかしたらそういったところも一つの要因かと考えている。直接羽村市というところについての分析をしたわけではないが、一つの要因として考えられるものと捉えている。</p> <p>人口ビジョンが、多岐にわたった内容なので、全体的な話はちょっと難しいと思うが、空き家の話があったのでお伺いする。空き家が一旦減少したが、今後上がる見込みというお話がある。これを資源として活用する動きというのはあるか。</p>
事務局	<p>昨年度末に青梅市の移住定住促進プランというものを作り、その中で空き家を活用した移住定住策を考えている。空き家バンクというものを設定し、空き家を所有者の方から新たに移住された方に貸していただけるような仕組みを構築している。そういった仕組みを作ってはいるが、空き家のクオリティや所有者の方のご意向等もあり、なかなかそれが爆発的に多くなるということではない。ひとつの策として、そういったことも取り組み始めている。</p>
委員	<p>全体的な傾向だが、人口が少なくなっているということと、少子高齢化が進んでいるというのは、もう避けられないことだと思う。それを何とかして止めるというか、そういう必要があるという意味で考えられていると思うが、もっといろいろ青梅市のアピールというか、魅力を知っていただくとか、いろいろやられていると思うが、SNS等はそれだけだとなかなか見てもらえないというのが課題だと思っているので、そこをぜひ考えていただきたい。</p> <p>例えばYouTubeだが、私はYouTubeをやっているが、中々見てくれない。一番見てくれるパターンは、やはりネタが面白いことが一番だが、もう一つは今流行っていること、今話題になっていることに対してうまく乗せると、バズりますということで、例えばちょっと前に、トップガンマーベリックという映画があり、かなり流行ったので、観られた方も多いうことで、それにあやかっているというか、ネタをちょっと YouTube に載せたら、3万3千回再生された。</p> <p>やはり何かうまく乗せることで、アピールというか見てくれる人が多くなるということもあると思うので、ぜひ青梅市をうまく、そういう何かに乗せてアピールするのはよろしいかなと思う。</p>
委員	<p>これだけアンケートもしつつ、調査もしながら作るのは大変だったと思うが、先ほど熊谷委員がおっしゃった通り、多岐にわたって網羅されていると思う。</p> <p>焦点は人口減少を食い止めるということだと思う。これを改めて今説明を受けたが、転出の年代、転入の年代、青梅市にずっと住んでいる年代を見ると、やはりどうしても子育て世帯というふうになるんだと思う。日本全てがそういう話になってくるんだと思うので焦点はそこなのかなと思う。</p>

委員	<p>アンケートを見ても、「今後も住み続けたい」、「良い」とされる回答には、「自然環境が良い」、「長年住み慣れている自分の家や土地がある」、これはもう今までいた方だと思う。</p> <p>その中にもう一つ「買い物の便が良い」というところになる。</p> <p>これはもう選択と集中だと思っている。やはりこれだけ限られたマンパワーで、限られた予算でやっていく中で、私は青梅マラソンも以前から知っているし、色々なメディアで青梅市はこういうまちだというのは知っていたので目が行くけれども、そこで何が突出しているのかとなると、やはり若い人の子育て、あるいは出産費用というふうになるんだと思う。なので、選択と集中で、子育てに特化してやっていけばと思う。</p> <p>今日の新聞で足立区が、困窮世帯で大学を諦めてしまうというような方がいるのでそれを諦めさせないということで、大学の費用で、私立の理系は800万、医学部は3500万まで払うとか、返却はいらぬというようなものも打ち出していましたので、何か目玉を一つ、ぜひやっていただければ、この人口減少も食い止められるのかなというふうに思っている。</p> <p>また、さらに地震というところに警戒して、青梅市を見るとかですね、今東京23区が住宅が高いと言われているので、なおさらこちらに目が来るというような相乗効果もあるのかなというふうに思っている。</p> <p>やはり、ここから読み取れる不安というのは、少子高齢化、また人口の減少かと思う。これは日本全体の話であって、大都市圏を除けばほぼ日本の全ての市町村がこういう状態になっていて、青梅はまだましな方なんだろうというふうに思う。なので、基本的には国がなんとかすべきで、総理が大胆な手を打ってくださるそうだから、それに期待するところはあるけれども、青梅としてどうするかという問題があるかと思う。</p> <p>青梅はこれからどうするかだけれども、もう既にこれからは過ぎてしまっている市町村が全国にはたくさんあって、話を聞いたり状況を調べたりすると、観光に力を入れるということが非常に多くなっている。</p> <p>つまり居住する人を今更増やそうと言ってもなかなか難しいけれども、遊びに来る人を増やすことはできるだろうとか、インバウンドも含めてそういう傾向がある。</p> <p>それから概ねそういうところは田舎なんで、学校をやるというようなことを言い出して、学校と言っても要するに田舎の学校をやる。</p> <p>というのは、一律全国で我々が学校と呼んでいるようなところは、平均的に優秀な子供たちを育てるといって、そういう学校だけれども、その中で落ちこぼれたりとか、本来その子が持っているある種の才能やらを、あるいは子供の自由なところを伸ばしてやりたいとか、本来であれば才能があるんだけれども、そういうものを全て平均化していくということに対して、良しとしていない親や子供</p>
----	---

<p>委員</p>	<p>がいるというのを見越してというか、そういうふうを考えて田舎学校を計画しているとか、必ずそういう人がいるはずだという考えのようで、そういう地域の特性を生かすということで、外部の人を一時的でもいいから引っ張り込んで、そこから何かヒント的なものが得られるのではないかという考え方が大変多いのかなという感じを持っている。</p> <p>青梅はそういう意味では東京都心に近く、すぐそこに大量の人口があって、これを居住させるのはやっぱりちょっと厳しい部分があるけれども、いろんな形で人を呼び込むということは可能だと思うので、研究していくといいのかなと思う。</p> <p>委員の皆様方のご意見やご感想に、全く同感している。私がこの資料を拝見して一番印象に残ったのは、22 ページの市民の意識、市民の声の定住意向のところで、多くのこういうアンケートにお答えになる方というのは割とポジティブな方だと思うので、何か青梅が嫌いで返事する人も今いないかもしれないが、多くの方が定住したいというのは非常に良い傾向だと思っている。</p> <p>ただ、その中でやはり 18歳、19 歳の方々に関しては、かなりそれが割合的に落ちている。</p> <p>ということは、やはり若い方たちのニーズとか、それから青梅の中でこれが欲しいというものが、もしかしたら欠けているということで、多分今後もそれがいろんな施策への警鐘になるのではないかなというような気もしている。今後も全体に関わってくるということだと思うので、やはりこういう若い方たちの意見を聞くことはすごく大事なんじゃないかなというふうに思っている。</p> <p>私は何回も青梅の会議で発言するが、私が教えている青梅市出身の学生はみんな戻って青梅で暮らしたいと言う。ですので、そういう学生たちの気持ちを大事にさせていただいて、また青梅に戻って就業して仕事をしたい、暮らしたい、子育てしたい、というような市にさせていただくためには、若い人たちが何を求めているかということ、ぜひ汲み取っていただけるといいかなと思う。</p> <p>あと、やはり先ほどの委員の発言のように、なかなか定住させることは難しい。ビジターはたくさん来てもらって、青梅を知ってもらうということは大事だと思う。やはり就業の中で、これから保健とか衛生とか社会事業というのは、青梅でも老人ホームがたくさんあり、そういう中でやはり技能実習生という制度はこれからまた見直されると思う。日本では労働人口が減っているのに、外国人の方がコロナ後には増えていくと思うけれども、今後の基本構想でもうたっておられるので、やはりそういう方たちが定住できる多様性ということを広めて、外国人を上手く労働人口として、定住者として入れていかれるようにするとういのはと思っています。</p>
-----------	--

委員	<p>意見というか情報をお話させていただく。</p> <p>やっぱり人という意味では企業誘致が結構重要だなと思っているが、投資は欧米とか大きな会社がなくなってしまったりして大変。</p> <p>ということで、先日檜原村に行ったときに、KORGという日本の楽器メーカーがあるけれども、基本的に電子楽器を作っている会社で、そちらが檜原村に事業所を作るという。電子だけじゃなくてアコースティックギター等を作るということで、多分自然環境というか材料も用意しやすいということで、そういう意味で青梅の特色を生かした、何か企業の誘致の仕方というのがあるのではないかと、何か考える材料というか、誘致できたらいいなというふうに感じたので、情報として、話をさせていただいた。</p>
会長	<p>青梅市の人口ビジョンについて、委員の皆様からご意見をいただいたが、いいとか悪いとかということではないので、感想を言わせてもらおうと、結構厳しいなというふうには思っている。</p> <p>それは、21 ページの人口推計で、これが実態を見通した数字だとして、30 ページの将来展望というのが目標みたいなもの。</p> <p>それで今やっている、事務方がこれを作るときに、当然こう考えるだろうなと思ったけれども、平成 21 年から令和 4 年度というのが、実績なわけで、そこからスタートして令和 9 年から 42 年までいくとすると、例えば、実際の数字でいくと、令和 4 年の 13 万 1123 人までは一緒で、令和 9 年のところを見るとですね、本来その推計でいくと 12 万 5 千 181 人が 12 万 6 千 195 人で、今やっている政策の効果が少し出てきて、政策がどんどんどんどん充実して行って、令和 42 年頃になると、本来 7 万 8 千 595 人の見通しが 8 万 9 千 601 人になると、こういうことになっている。</p> <p>ビジョンなので、私はいいと思うが、ただ市民の方で、この数字の根拠はどうやって積算したのかと多分なると思うので、ベースはこの数字で例えば 7 万 8 千 595 人で、それに転入・転出とか、今やっている政策がこうで、その効果がこういうふうに出てとか、何かそういう紙で回答を持っておいの方がよいのではないかなというふうに思う。</p> <p>冒頭申し上げた通り、これだからいいとか悪いではなくて、事務方の人とこの前話したときに、人口が減少しても住みやすく、市民の方が「青梅がいいよ」と言えば、それでいいのではないかな。あと、さっき委員がおっしゃったように、多様性という、そういうキャパシティというか許容度があれば、確かに外国から日本に期待している人はいっぱいいるわけで、ぜひ見に来てほしいというキャンペーンか何かやって、どんどん受け入れれば人口は増えると思う。</p> <p>ただ、うまく今の市民の方に溶け込めるかとか、ルールがうまく守れるかとか、ルール違反する人がいるとか、ちょっと心配はあるけれども、多分それはうまくやりさえすれば間違いなく人口が増えると思う。</p>

	<p>ただちょっと難しさも逆に言えばあると思うけれども、そういうことで皆さんから特に他にご意見がなければ、この人口ビジョンはこれでよろしいでしょうか。</p> <p><委員の同意あり></p> <p>委員の皆さんもこれでよろしいということなので、この件は以上とさせていただきます。</p>
会長	<p>では、次第の3、協議事項「第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版(案)」について事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p><「第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版(案)」について資料2を用いて説明></p>
会長	<p>「第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版(案)」についてご意見やご質問があればお願いしたい。</p>
委員	<p>KPIの指標を減らすということには、私としては賛成。</p> <p>いろいろあって、それらをどう実現していくのかということを見ると、やることがかかり増えてしまう感じがしたので、こうやって基本方向にそれぞれ一つということをやると、それに対してどうすればいいのかということに集中できると思うので、私はKPIの種類を減らすことには賛成をさせていただきます。</p> <p>あとは、2 ページ目の、「子供を産み育て将来にわたり暮らし続けたいまちを実現」ということで、お子さんを育てやすい環境ということになると思うが、実はこの前、浜中市長とお話しする機会があって、お子さんに楽しんで欲しいなという話をしていて、「青梅市の中にそういう楽しめる施設、楽しめる環境を作れたらいいよねというのが実は私が一番やりたいことです」とおっしゃっていたので、ぜひやっていただきたいと思う。</p> <p>その中で話したのが、私は子供の頃って危険がたくさんあって、遊んでいると怪我をよくしました。今それを防ぐためにいろんなことで守られていて、公園の施設とかも使えなくなっていたり、安全はもちろん大事だと思うが、それによって逆に子供の危険回避能力が下がるというか、冒険したり、チャレンジしたりできなくなっていないかなっていうことを危惧しているというか心配なところで、私は本当に子供の頃危険な事をしてそれで怪我をして、じゃあ次は怪我しないように頑張ろうとか、そういうふうに来てきた。</p> <p>今ってなぜか、そういうチャレンジする場面が減っていて、私からするとかわいそうだなとか、思ってしまうんですけども、それがいい悪いは言えないが、ちょっと本来であればもっと人間力というか、人の力を高めるためにはいろんなことを鍛えないと成長できないんじゃないかなっていう面があるのではないかなって思っていて、それがスポイルされてきているというように思っている。</p>

<p>会長</p>	<p>ちょっと関係ない話をしてしまって申し訳ないが、そんなことを考えていた。</p> <p>美しい多摩川フォーラムというものを開催していて、これは川を中心とした教育とか文化とか経済とかいろんなことをやっている中で、川遊びを教えている。</p> <p>昔は友達と一緒に川に行って遊んで、今熊谷さんおっしゃったように、怪我をしたりとかということもあって、痛みがわかって、今度からこうしちゃいけないんだなとわかる。</p> <p>今、友達と外であんまり遊ばなかったり、川も親が行かせなかったり危ないからというが、そうじゃなくて、やっぱり川遊びはした方がいいんだと。</p> <p>ただしルールがあって、そのルールを守らなくちゃ駄目なんだよということを教えないから、川にも近づかないということになってしまうので、そんな教育を1年に1回青梅市にも協力してもらいながら実施しているが、子供たちはすごく喜ぶ。</p> <p>それで、ちょっと低い丘から川にジャパンって飛び込ませる。それはもう人気で、もうみんなやりたくてしょうがない。</p> <p>ただ、その前にちゃんと講習をして、ルールを教えるからやらせる。そこには大人がちゃんとついていて、もしもの時には対応できるような形にしている。だんだん慣れてくれば、普通にそういう遊びををすると思う。あと魚を手づかみしたりとか、いろんなことやるけれども、意見があったとおりに、やらせなくなっているというか、自分たちの遊びに親が介入してきて、本来は自分たちのルールがあって、友達と一緒にやっていけばいいのだけれども、それさえもなくなったりする。</p> <p>育つのにそういう実体で覚えるリスクみたいなものが覚えられなくなってしまうということは、私も同感で、やらせないんじゃないで、やらせて、最初のうちだけはちゃんと見てやると、親がこのようにすればいいんじゃないかなと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>質問になるが、2 ページのKPIの「自分の考えを深めたり・・・」という、この数字は青梅市内の小・中学校が対象で、どういうアンケートを取られたのか。</p> <p>いろんなアンケートの回答の一つで、年1回やっているということによろしいか。</p>
<p>事務局</p>	<p>これは青梅市内の児童生徒ということで捉えていただきたい。</p> <p>学校現場におきまして様々なアンケート調査を、一人一人に対して行っており、学校評価の調査などの一つの項目となっている。</p>
<p>委員</p>	<p>それと、3ページにある「延べ宿泊数」など、*印で出典元を記載した方がよいと思う。</p>

事務局	<p>あともう一つ質問で、3 ページ目の創業支援について、他の数字は目標値ということで、9年度の目標を高く設定しているけれども、ここに関してはそんなに伸びていない。これは、何か算出根拠はあるか。</p> <p>創業支援については、青梅信用金庫と商工会議所と青梅市の3 者で協定を結んで、創業支援センターを開いている。そこで創業塾ということで、研修などをしていただいている、そういうところを毎年大体 50 人から 60 人ぐらいの方が修了されて創業しているというようなのが現状としてある。</p> <p>もう一点は、青梅の駅前の中心市街地の活性化の基本計画の中で、空き店舗を活用してということで、青梅から東青梅ぐらいの間にこれまで大体 50 店舗ぐらいが、開業されている。</p> <p>中心市街地活性化基本計画の数値を大きく上回った数字が既に出てくると、あとはなかなか新規にお店を建ててというよりは、空き店舗をうまく活用してスタートアップしていただきたい、というような意味合いから、数字的にはそのような目標になっている。</p>
委員	<p>4 ページ目の最後の KPI の介護予防教室の受講人数というのは、どのような教室なのか。</p>
事務局	<p>内容的には、いわゆる認知症予防のためにどのような生活を送ったらいいかという講座であったり、身体能力を落とさないための体操教室であるとか、そういったものを市内各所で開催をしている。</p> <p>新型コロナウイルスが広がる前は、年間延べ 1000 人弱の方が受講されており、そういった経過も踏まえ、年間 1200 人は受けていただいて、できるだけ要介護状態になるのを抑えていくというような趣旨の内容となっている。</p>
委員	<p>基本目標の 3 だと、高齢者福祉というのが重要だと思うので、よろしく願いたい。</p> <p>話が戻ってしまうが、多様性を認め合う地域社会作りということで、会長と副会長の方から、外国人の方という話があったが、まさしく技能実習制度という制度の中で機能しなかったという部分はあると思う。</p> <p>ハローワーク青梅管内は、ご承知の通り福祉施設が 10 年前と比べて多くなっている。ハローワーク青梅管内の有効求人倍率で、1コンマゼロ台で 1 人に 1 件の求人があるということだけれども、ミスマッチというがあるので、必ずしも自分が望む求人には行けない。いわゆる事務職だと有効求人倍率は 0.3 とかで、全然求人が足りない。そうは言ってもこの介護とか施設の求人に対して、希望者がなかなか少なく、人手不足という状況となっている。</p>

<p>委員</p>	<p>小さな面接会でも大きな面接会でも。福祉施設は来ていただければ採用するという状況。そういった状態で人手不足が続いているということなので、今後はやはり技能実習生に頼らなくてははいけない。そういう意味で3、4年前に技能実習制度ができていたが、コロナで頓挫してしまったところがある。今後もう少し改正をしようと思うが、そこで増えてくれば、福祉施設が多い青梅市で海外の方の実習生を雇い入れると、定住まではいかないかもしれないが、外国人の受け入れに進んでいくということになるのではと思う。</p> <p>先ほどもお話あったように、普通の生活の中でのハードルというのは、いろいろあって、ゴミの出し方一つからハードルというのが出てくるという話は聞いているので、先ほどの話とかぶってしまうが、多様性という視点というのは確かに必要かと思っており、何かあればまた相談いただきたいと思う。</p> <p>先ほどあった、子供にもっと冒険をさせた方がいいんじゃないかという話はいろんなところに出ていて、子供に泥遊びをさせると、すごく精神的に安定するらしいが、親や周囲の環境が泥は汚いから触るのは駄目とか、あと、ナイフを使っていろんなものを工作させると、いろいろ物を作ることができて大きな喜びに繋がるが、ナイフを持って怪我をすると危ないからナイフを触らせないとか、でもナイフで怪我したところで、そんな大して大怪我するわけではないので、いいんじゃないかと思うが、それは都会的な思想であって、青梅を含めた東京から比較的近い田舎というのは子供たちにそういう提案ができて、川に飛び込むとかそういうことができる場所がたくさんあるかなというふうに思います。</p> <p>前も言ったが「あそぼうよ！青梅」というのは、とても青梅を良い意味で表現しているキャッチコピーだと思っている。</p> <p>本当に青梅がいいかどうかは全然わからないわけで、誰もよくわからない。もっといいところがあるかもしれないし、デジタルに比較できる問題でもない。</p> <p>でも「あそぼうよ！」という言葉に共感する人はきっとたくさんいるだろうと思って、共感した人たちに何か具体的なことが提供できればいいなというふうに思う。</p> <p>市長が一駅一事業というのを、おっしゃっていて、そのときにやりたいという人がいた。</p> <p>御岳はこういう事業をやりたいという方がいて、青梅市がその人に事業を行なっていいですよというルール作りがなされておらず、なぜそれが採択されてしまうんだというような話になるので、例えば協議会的なものを作って、市民や、あるいは一般から何々駅はどういう事業をやりたい、やったらどうかというのを募集して、それを審査して決めていくというようなルールができると、一駅一事業は可能だと思う。アドベンチャーラインに沿った形でやるといいと思うの</p>
-----------	---

委員	<p>で、奥多摩も入れていただいて、「あそぼうよ！青梅」という言葉が、実際の遊びと連動していくという感じが出てきていいかなというふうに思う。</p> <p>デジタル田園都市国家構想については、デジタルはきっとどんどん進んでいくのだと思う。</p> <p>そのときに否定されそうな、アナログとかアナログに郷愁を持つ一般の皆さんのイメージを青梅で引き受けていくと、青梅というところは環境的にもいいところだなというようなイメージが伝わっていくという気がする。</p> <p>青梅はそういう意味では、非常に可能性が高いところかなと思う。</p> <p>最近新聞に木材の記事がよく出ていて、要するにCO2を吸収するということで森林の価値が見直されて、木をつかった建物で高層ビルもできるようになった。そういう話で、青梅・奥多摩・檜原は、CO2産業の東京におけるメッカであると、そういうふうに考えられるかなと思う。ゼロカーボンシティという言葉もあったけれども、それに最も貢献している市町村の一つではないかなというふうに思う。</p> <p>この資料2を拝見して、今までいろいろな指標がたくさんありすぎて、なにかもう追いかけるのが大変だということで、スリム化されたというのは非常にわかりやすく良かったと思う。</p> <p>ただ、それに伴う危険性としては、全てを網羅した結果ではないということなので、やはりそれぞれの施策展開をしていく中で、それぞれ個々に指標を持たれて、それをきちんとクリアしているか検証するというのは大事だと思う。</p> <p>例えば、2ページ目の教育環境の関係のKPIについては、自分の感覚での回答になるので、子供たちがそう思ってしまうばクリアするし、駄目だと思ったら駄目というような値になる。これももちろん大事だけれども、全国学力テストの結果もきちんと見ておいて、例えば、数学がどうも弱いとか、算数がどうも弱いとか、そういうところはきちんとその検証をしていくべきだというふうには思っている。</p> <p>青梅市は早くにタブレットを全ての児童・生徒さんに配布されたというふうに聞いているので、それがどれぐらいの効果があったのかというような検証も必ずされて、それが良かったのかとか、もしかしたら紙媒体も必要だったのかとか、そういう検証というのが大事なんじゃないかなというふうに思う。</p> <p>資料1の25ページの「子どもの学力を高める学校教育が充実しているまち」という印象が、ちょっと低かったかなというふうな気がしていて、でも10年後の期待値は上がっており、まだ伸びしろがある。</p> <p>パブリックコメントでも中高一貫校を作ってほしいという希望・期待というのがあったと思うので、そういったことを反映させていくようにされればと思っている。</p>
----	---

<p>会長</p>	<p>委員からもお話いただいたが、KPIの取り扱いが難しく、KPIそのものは数値化されるからわかりやすく非常に良い指標だと思うが、実態をうまく表しているかどうかというところが、なかなか難しいし、事務局も苦悩の末にこういうことにしたんだと思う。</p> <p>この基本方向と施策を着実に実行していくことが大事で、その結果として全てがうまく当てはまる指標が出てくれば一番いいけれども、なかなかそうもいかないで、こういうことにされたんだと思う。</p> <p>他に委員の皆様で、こういうKPIはどうかというものはあるか。</p> <p>出生数についても、子育てに今注目が集まって、岸田総理や小池都知事も発言している。</p> <p>けれども、なぜ子供を作らないかというのは、将来が不安だからだと思う。</p> <p>だから今の5000円もらって子供を作れるかと言っても難しいということになると思う。将来の夢が持てるというか、青梅市に住んでいると、子育てにもこんなにメリットがあるよとか、他の市に比べたらこんなに良い面があるよというものを何か打ち出せるようにすれば良いのではないかな。</p> <p>この青梅市の立地からいって委員が触れてくれたけれども、要するにCO2の排出削減というのは、森林によって吸収してもらい、それはそれでポイント換算できるということなので、それが千代田区や新宿区でできるかというところできないわけで、やはりそういう自然環境をうまく利用したことが何かできるといいと思う。</p> <p>資料の基本方向や施策展開が全てKPIで表しているかということ、委員のご指摘の通り全ては網羅できないので、非常にそういった面では難しいというか、事務局の方も困っていると思う。だとすれば、KPIはこれはこれでいいとして、何か他の検証方法というか、画期的なKPIを委員の皆さんから出していただけか</p>
<p>委員</p>	<p>共通する視点として、デジタル・脱炭素・多様性が挙げられているので、きちんとそれぞれの基本目標がクリアしているかどうかのサブKPIみたいなものを作るのも、もしかしたら一案かもしれない。</p>
<p>会長</p>	<p>事務局へ質問ですが、資料2にある基本目標と政策の展開のところの、一つ一つの項目について、どこかでチェックするような機会はあるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>第2期青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂版については、今回別の冊子として作るのではなくて、前回は説明させていただいたとおり、第7次青梅市総合長期計画基本構想・基本計画の後に一体として冊子化していく。この総合戦略では、KPIを設定し、それを追求しようという考え方を説明させていただいたが、一つ一つの政策については、第7次青梅市総合長期計画がしっ</p>

	<p>かりと進んでいるのか、できているのかってというようなものを、また違ったチェックシートを用いて、毎年度毎年度PDCAサイクルに基づいて確認をしていく。また、先ほど一例が出た介護保険事業計画の中にも、目標値が設定されているというようなことを申し上げたが、青梅市総合長期計画が市の最上位にある計画であり、その下には環境や介護、交通安全などの個別計画が位置づけられている。この中に色々な目標値が設定されているので、総合戦略に掲げないから数値目標を追求しないということではなくて、市のそれぞれのセクションにおいて一つ一つの事業を検証していくときには、それぞれの個別計画に定めていく中の目標は追求していく。</p> <p>サブKPIという御発言があったが、様々な目標値が至るところで設定をされているので、それらを用いて、毎年度どういう数値で動いているのかということも、傾向としてお示しすることは十分できる。</p>
会長	<p>その検証の結果は、開示されているか。</p>
事務局	<p>各種個別計画を策定するときにも、それぞれ外部の委員、例えば専門家の先生であったり、公募の市民委員であったり、関係団体の方々に委員をお願いし、その都度PDCAに基づいて、その目標値等の推移というものは、ご報告をさせていただき、それに基づいて、各委員の方々からご意見を頂戴している。</p> <p>これらの資料については市民の皆様にもホームページに会議録と合わせて資料を公開している。</p>
委員	<p>検証というのは大事なと思うので、ぜひそのように公開されるということで、よろしくお願ひしたい。</p>
会長	<p>さきほど委員がおっしゃったデジタル化について、どんどん進んでいくと思うが、青梅市の場合は比較的高齢者の方が多い中、これから通信教育でITを勉強してという人も少ないでしょう。</p> <p>だから、そういう意味では、紙媒体も残った方がよくて、青梅市の特色として高齢者の方に優しいまちという特色を出すためにも、そういうやり方も残していただけるとありがたいと思う。</p>
委員	<p>全部が全部じゃないと思うが、ITと言って、タブレットが配布されても、場合によっては閲覧性が悪かったりして、逆に手間がかかったり、わかりにくかったりするところも実はあると思うので、そういった二面性というか、いろんな面で良い形にできれば、その方がいいと思う。</p>

会長	<p>他に意見がなければ、本日の内容については、以上とさせていただきます。</p> <p>本日、委員からの発言については、人口ビジョンおよび総合戦略の改定作業に向けて事務局の方で対応をよろしくお願ひしたい。</p>
事務局	<p>本日の会議録は用意でき次第、委員の皆様にお送りするので、内容の確認をお願いしたい。</p> <p>今年度開催した本懇談会において、各委員からいただいた意見を参考に、青梅市人口ビジョンおよび第2期青梅市まちひとしごと創生総合戦略の改訂版を完成させ、最終的には先ほど申し上げたとおり、第7次青梅市総合長期計画の中に合冊し製本したものを配布させていただきます。</p> <p>また、この作業に基づいて改定がなされた総合戦略については、2月17日から開会する青梅市議会定例会の全員協議会において報告を予定している。</p>
会長	<p>以上で本日の議事は全て終了したので、青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会を終了とさせていただきます。</p> <p>(閉会)</p>